

本号は、「高齢者向け住まい」連載の予定を変更し、現在進行している円高についての見方を2ページに掲載しております。ご参考にしていただければ幸いです。

BFSニュースレター

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

2010年9月1日発行

Vol. 16, 第16号

このニュースレターの主な掲載情報:

- グローバルな政治・経済、マーケットの最新情報や分析見通し
- BFSのサービス、実際のトピックス、ケーススタディ
- 資産運用や人生設計に役立つ情報
- 知っておくと得するホットな情報

株式投資は、会社の経営と同じ時間軸で

お金を投資信託や株に投資して、そのままにしておく、実社会で一生懸命働いて汗をかいて努力しているようにしないといけなのではないか、という気持ちになってくると大変多いように思います。

前月号で「投信の乗り換え」は資産運用にならないとお話しましたが、これも、投信を持っているご本人が少し動かした方がいいのだろと思うので、証券会社の勧めについで乗ってしまうのです。

株式投資には、お金に働いてもらうという観点と経営の時間軸に合わせるという観点が大事だと思います。これは、ぜひ覚えておくといいでしょ。皆さんが、あまり神経をすり減らさないで、結果として楽しながら、大きな成果を得ることにつながるからです。

毎日毎日、スクリーンやチャートを見ながら、新聞記事や株式投資本を読み漁り、株価を追って目先の利益を取ろうとしても、取ったり取られたりのゼロサムゲームになってしまい、ただ疲れるだけです。これは、いわば会社の経営とは離れたところで、目先の株価の動きを見ながらゲームをやっているようなものなのですね。

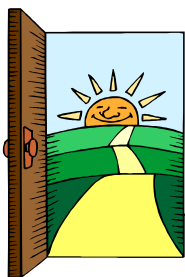
株式投資の世界では、こういう世界ともう一つの世界があります。その世界を紹介しましょう。

皆さんが株式や株式投資信託に

投資したお金は、どこにいついるかといいますと、会社の経営に注ぎ込まれているのです。ここを忘れてはなりません。言葉を言い換えますと、会社の一部を買い、所有しているともいえます。これが株式投資の本源です。

そうしますと、株価を追い信用残高を調べて目先で売買するのは、本来の株式投資からは外れているのがわかるでしょう。こういうやり方では、利益が出ないのです。

経営の時間軸は、少なくとも3年から5年ですね。会社の一部を保有しているとしたら、その経営を見守る、あるいは見極めるという意味では、それと同じ期間が必要であり、その程度の期間持ち続けないと、その経営の評価は下せないということです。



その意味では、その会社に投資したあとは信頼して見守り、会社の経営陣や社員に働いてもらうということになります。ここに株式投資のあるべき姿があるのです。皆さんもぜひこのような考え方を持つと、あとあと大きな違いとなってくることでしょ。

いつも市場に参加していることの意味

米国市場の戦後55年の上昇幅(300倍)の半分は、どの位の期間で達成されているでしょう? 10年あるいは20年でしょか?

答えは、10日間です。このように、株価はいつ上がるかわからない、上がる時は急速に上がるという特性を持っています。そして、いつ上がるか、それは誰にも予測できません。すなわち、上昇波動に乗ってよい投資成果を達成するためには、いつも市場にいる必要があるわけですね。よく株価が動かないからもうだめだろうと思って、売って乗り換えたりしますと、その後突然上がりだすということが起きます。

ノーベル経済学者、サミュエルソンは「株式投資は草木を育てるように」といっています。これは、「いつも草木がそこにある」すなわち「参加している」ということが必要なことを意味しています。



ただし、最後に大切なことをお伝えしましょう。それは、長く持っていて安心していただける市場に参加しようということです。はたして、日本の株式市場が、安心して参加していただける市場かどうかは、拙著「いまこそ始めよう外国株投資入門」をお読みください。

今月の言葉: 潜龍元年

「潜龍」とは、将来大きく飛躍する大志を抱きながら、世の最下層に潜み隠れる龍のこと。大事なものは、志であり、志を抱くことがなければ、何も変化は起らず、成長や進化もない。志を抱くに歳は関係なく、新たな変革を起こす志を養うことが大切である。-易経



・BFSのミッションは、お客様とパートナーになり、正しく客観的なプランニングとお客様資産の運用を通じて、お客様を人生のゴール達成に導くことです。

・BFSは、金融機関とは完全に独立して、お客様利益最優先の公正なアドバイスを提供しています。

・BFSは、最新で高度な理論や知識、30年以上のグローバルな豊富な経験、強い倫理観で最高品質のサービスを提供しています。

・資産運用サービスやライフプランニング、BFSについてもっと詳しく知りたい方は、左記までお問合せください。

Web サイトもご覧ください
<http://www.bfsc.jp>

発行者 びとうファイナンシャルサービス株式会社(BFS)

代表取締役 尾藤 峰男

〒105-0022

東京都港区海岸1-2-20

汐留ビルディング3階

電話：03-6721-8386

携帯：090-4934-3121

FAX: 050-3156-1072

電子メール：info@bfsc.jp

拙著『今こそはじめよう 外国株投資入門』
日本経済新聞出版社一好評論発売中！

実はこの本は、外国株投資だけでなく、現在の日本の株式市場や企業のコーポレート・ガバナンス、株式のパフォーマンスを外国と対比し、日本の現状の問題点を浮かび上がらせたもので、日本の株式市場を巡る課題を把握する上でも役に立つ本です。

ぜひお手にとってご覧いただければ幸いです。

お客様の人生に豊かさを、心に安心とゆとりを—BFSの大切な役割

最近の円高は政府の無策と外交力のなさの結果

このところ円高が進んでいます。一時83円台に入り、15年ぶりの円高水準になったとのことです。

このような円高の背景に、欧米の景気減速懸念や欧州の金融機関の資産悪化観測がいわれられていますが、果たしてそうなのでしょうか？ おそらく、日本の景気減速や増加する国債残高をみると、どこも同じかあるいは日本のほうがもっと深刻といってもよいでしょう。そのなかでどうして円高になるかといいますと、政府の無策、外交能力のなさが表れているといえるのではないのでしょうか？

所詮は、為替水準は国益にかかわるもので、米国が盛んに中国元が強すぎると圧力をかけ続け、中国がそれに執拗に抵抗しているのは、まさに外交戦なのです。現在欧州のユーロは、金融危機から大幅に安くなっていますが、一方でBMW、エアバス、ルイ・ヴィトンなどの輸出企業は、数倍もの大幅な増益になり、米国もドル安により企業業績は好転し、母国通貨が安いことに居心地よく、為替についてはだんまりを決め込んでいます。

かたや、日本は経済が弱い中15年ぶりの円高水準で、日銀・政府はどうしたらいいかわからず途方に暮れているという状況です。為替

介入についても欧米の同意を得る自信がなく、策が見出せないのが実情です。そのあたりをマーケットが見透かし、円買いを進めているといってもよいでしょう。



ただし、拙著「いまこそ始めよう外国株投資入門」でも書いていますが、外国株を買っていると、現地通貨安(円高)による業績の好転の恩恵を受けられること、通貨安につながるインフレによる株価の上昇から、通貨安の相当部分が相殺されること、さらには現地通貨の金利高により円高の一部が吸収されることなどから、目先の円高はあまり気にする必要はありません。

ご参考までに、1995年6月に84円台に入ったあと、98年7月には144円近くまで円安が進んでいます。今の日本の状況を考えると、ちょうど同じような時期にあたっているのではないかと見ています。